

多民族国家ガイアナの多文化共生社会 ー「ガイアナ 2030」と社会経済開発環境ー

伊藤 みちる



ガイアナ地図

はじめに

近年経済発展が著しい南米唯一の英語圏であるガイアナは、インド系・アフリカ系・中国系・ポルトガル系・先住民などの多民族から構成される。その国政がインド系とアフリカ系の人種別二大政党により行われるといわれる¹一方で、政権を握る時々の人種の文化に傾くことなく、常に様々な宗教や慣習が広く親しまれる多文化共生社会が展開されている。

本稿では、ガイアナの社会経済開発目標を紹介し、隣国との国境問題や国内問題を取り上げる。さらに執筆者がガイアナで累計3年間生活した経験から、駐在



首都ジョージタウン全景 (写真はすべて執筆者撮影)

外国人の生活インフラについてまとめてみたい。

「ガイアナ 2030」

(1) 背景

2001～06年、人民国家会議／改革党代表の下院議員を務め首相候補ともなった中国系3世のスタンリー・ミン氏は、2015年3月、ガイアナの社会経済開発目標「ガイアナ 2030 (Guyana 2030)」を発表した。ミン氏は、日本の自動車メーカーや原動機メーカーのガイアナ総輸入代理を務めており、豊富な訪日経験を持つ知日家である。また社会を人種により故意に分断し、政治利用する国政からは距離を置き、中立を保つ実業家である。

(2) 主要内容

- ①カリブ共同体（カリコム）や南米諸国連合など域内経済統合体や近隣新興経済大国を通じた世界市場への参入。
- ②ダイヤモンド、金、ボーキサイト、石油、水など天然資源の積極的利用。
- ③南米と世界を結ぶ、英語のビジネス環境を持つ経由地としての立地を有効活用。
- ④気候変動による災害被害を予防するためのインフラ整備。
- ⑤首都ジョージタウンから、エセキボ川河口のバーティカへの首都移転。
- ⑥輸出活性化を目指し、新国際空港や深水港、農作物・水産資源加工施設の建設。
- ⑦農業多角化。
- ⑧人種・信条で区別しないすべての国民の国家的統一。
- ⑨現在の大統領制改革を可能にする憲法改正。

(3) 解説

「ガイアナ 2030」は非常に壮大な開発プロジェクトではあるが、現実的な長期開発目標でもある。ガイアナの経済社会開発の可能性を見つめ、それを妨げる要因を暗に示している。2015年5月の総選挙2か月前に発表された本案は、23年ぶりに政権交代を果たした「国民統一の

ためのパートナーシップおよび変化のための同盟」によって支持されている。なお、発表の会場には、駐在外交団から経済・政治担当官が姿を見せた。

本案は、先住民の言葉で「水の大地」を意味するガイアナが有する多くの河川の有効活用を提案している。例えば、ブラジルのマナウスに工場を持つ世界企業が利用するアマゾン河を東に大西洋に抜ける水路よりも経済的な輸送路の提供を提案する。つまり、マナウスからガイアナのエセキボ川に面する町まで陸路で北上し、エセキボ川を水路で北上し大西洋に出る輸送路である。

また高い農作物廃棄率を理由に、食料生産力を3割に抑制している現状を鑑み、生産地から都市部までの陸路でのアクセス改善に加えて、水路と空路での輸送路・港の確保、農作物の加工工場建設、さらには広大なサトウキビ農園跡地の再活用、そして農業多角化を挙げている。そうすることで、カリコム単一市場における「フードバスケット」としてカリブ海諸国へ²、また北米やEU市場へ、多様な生鮮食品の供給を目指すとしている。

首都を大西洋から守るため1880年には完成した堤防「シー・ウォール」は、老朽化が進み、崩壊が始まっている。また近年、特に大潮の満潮時に高潮が堤防を越え、首都に海水が流入するようになった。さらに今般の無計画・無秩序な建設ラッシュが、首都に廻らされた水路の要所を塞いでしまい、また投棄ゴミが水路を塞いでいるため、街の排水機能が低下し、大雨後には必ず首都の一部が冠水する。本案は、海面上昇や海岸線の変化は防げないため、海水が流入しないエセキボ川の奥まった河口に首都移転をすべきだと主張している。

これに関連し、首都ジョージタウンはゼロメートル地帯である旨、よく耳にするが、事実とは異なるようである。2010年の米州開発銀行とガイアナ水道局の首都下水道システム基本計画³に記載された地形調査結果によると、首都は平均海面よりおよそ0.35mから1.35m高い所に位置し、平均満潮位(1.66m)よりおよそ0.31mから1.31mと低く、平均海拔は15.56mであるという。とはいえ、大西洋沿岸を走る高速道路に海水が勢いよく流れ込む様子は圧巻であり、長靴姿での出勤が必要となる首都の状況は改善されるべきである。

国境問題

現在ベネズエラとスリナムとの国境問題を抱えており、これら二国の主張どおりに国境が定まった場合、



ジョージタウン市庁舎 首都にはイギリス統治時代の木造建築が残っている

ガイアナ領土は現在の3割ほどになる。首都から遠く離れた森林の中や川の上の現在の国境には常駐兵士や入国管理施設は存在せず、現実的に自由往来が可能な状態である。

今までのところガイアナはベネズエラの政治的な攻撃に対応している。2015年7月、ガイアナはカリコム首脳会議において、ガイアナを支持する旨のカリコム統一見解を形式的に得た。しかし実際には、カリコム加盟国の多くはペトロカリブ協定のもとベネズエラから特惠を受けており、カリコムとしてベネズエラに対する強硬な姿勢は導き出せなかった。

2017年9月現在、両国との国境問題に特に目立った動きはないが、ベネズエラが再度国境問題を持ち出すことは明らかであろう。今後の見通しがはっきりしないことが、豊富な埋蔵天然資源が確認されているガイアナへの投資の足かせの一つとなっているのが現状である。

ガイアナ総人口の8割は大西洋沿岸に住むが、ベネズエラが領有権を求める、熱帯雨林、マングローブ林、サバンナでは、先住民を初めとする住民が生活を営んでおり、学校や教会を中心としたコミュニティが点在する。現地に駐在するピースコー（米国平和部隊）やキューソ（加）等のボランティアが、教育、保健衛生、環境、再生エネルギー等の分野で活動している。国連開発計画やWHOも、同様の分野に関し、首都から出張ベースで協力を行ってきている。なお現地では日本メーカーのソーラーパネルがコミュニティの要所に設置され電気供給をしてきたが、2012年以降は政府主導の内陸部電気供給プログラムにより中国製のものが各家庭に導入されている。

国内問題

(1) 治安

強盗、車上荒らし、家宅侵入、違法薬物を使った強盗・強姦（男女共）は日常茶飯事である。駐在外国人の犯罪被害が深刻であればあるほど、プライバシー保護の観点から被害情報が共有されることはない。また各外交団や国際組織はそれぞれが持つ情報に基づく防犯安全規定を設けているが、出張ベースでガイアナを訪れる一般企業には多くの情報が入ってこないのが実情であろう。そのためであろうか、牧歌的なガイアナの風景に魅了され、国際機関では立ち入り厳禁とされる地域に邦人出張者が訪れ、強盗被害に遭う事件は跡を絶たない。現地の人でも避けるようなレストラン、バー、スポーツジム、ナイトクラブは数多く存在する。さらに、立派で快適そうでも、経営の裏に犯罪組織が関わっていたり、世界で一般的な防犯防災安全基準を満たさなかったりするホテルも存在する。その中には一部外交団からは立ち入り禁止とされているにもかかわらず、邦人出張者が現地関係者に勧められるまま利用しているホテルもある。やたらと煌びやかなのにもかかわらず格安なホテルは避け、米大使館や国連機関の関係者が宿泊するホテルを利用するのが懸命である。



1881年に建設された時計台が目印のスタブロー・マーケット 多くの外交団と国際機関は立ち入り禁止に指定している

(2) 自殺

2012年度 WHO による世界の人口10万人あたり自殺者率の報告によると、ガイアナは44.2人と世界一位だった。特に農村部の自殺率が高く、主にインド系男性が農薬を飲んで自殺を図ることが多い。

(3) ドメスティック・バイオレンスと心中

女性や子どもに対する、あらゆる暴力は深刻な問題で、配偶者や父親の自殺に巻き込まれて命を落とす事

件は少なくない。

(4) 頭脳流出

ガイアナ大学卒業生の約9割が卒業式から1年以内に国外に移住し、実際に毎年2万人がガイアナから欧米や近隣カリブ諸国へ移住する⁴。

(5) 環境問題

金鉱山で使用される水銀、その他重金属や化学物質による河川の汚染は特に深刻である。

駐在外国人のための生活インフラ情報

(1) 物資へのアクセス

ひととおりの日用雑貨は手に入る。生鮮食品は新鮮で安価なものが入手可能である。一切虫食いのない葉物野菜が売られているが、ガイアナでは農薬の種類や使用量に対する規制が徹底していないことも留意すべきである。乳製品はほぼ100%輸入であり、フランスやオランダ産のロングライフ牛乳が日本と同等の値段で入手可能である。時折、キッコーマンの醤油やパック豆腐を見かける。衣類は、選ばなければ何でも手に入るが、スーツやワンピースなどは仕立ててもらうのも一案である。



魚市場では、新鮮で種類も豊富な魚は安く、時にはアジやアンコウも並ぶ

(2) 住居

外国人が住む比較的治安が良い地域の防犯対策がされた家具付住居のおおよその家賃は、2017年9月現在、1ベッドルーム1,000米ドル、3ベッドルーム3,000ドルである。外交団と国際機関には、24時間態勢で警備員を住居に配置する規定があり、家賃とは別に経費は1か月3,000ドルほどである。

電気代は高価であり、エアコンを日常的に使用する

と、ひと月の電気代が1,000ドルを超えることもある。また電気供給は不安定でジェネレーターが必須である。水道水は飲料に適さないため、飲み水を購入する必要がある。インターネットやケーブルテレビの供給は安定してきている。



執筆者が住んだ一軒家 通りに並ぶ家のすべてに駐在外国人が住む地域もある

(3) 外食

選択肢が少なく、概してかなり割高である。2008年にガイアナとブラジルを結ぶタクツ橋ができてから、ブラジルの生ビールを提供するシュラスコ（ブラジル式焼き肉）レストランが目立つ。価格はブラジルの約3倍だが、週末には駐在外国人で賑わう。イタリアンやフレンチと名を掲げるレストランもあるが、中国料理が無難である。また選択肢となりうる日本風料理を出すレストランはまだ存在しない。

(4) 子女の教育

いわゆるインターナショナルスクールは存在し、外国人子女が通う。しかしソフトインフラの質は決して高くなく、教員を補うような形で、駐在外国人の配偶者たちが熱心に学校運営に携わっている。自身の子供2人を通学させた日本人元駐在員によると、「行かせてせいぜい小学校低学年まで」とのことである。実際に、ティーンエイジャーを抱えた駐在家族は見かけない。

(5) 病院

病院のハードインフラは決して優れているとは言えない。現在活躍するガイアナ人医師はロシアやキューバで医学を学んだ者が多い。医師不足を補う形で、キューバ人や中国人医師も多く働く。入手可能な医薬品は限られていることが多い。

(6) 余暇の過ごし方

内陸部のエコリゾートやスリナムは、陸路移動に時間がかかるため、週末旅行の目的地とはなりえない。週末には直行便が飛ぶバルバドスやトリニダード・トバゴに出かけることが多い。ホテルのプールやテニスコートも利用可能である。

(7) その他

特に子どもがいない配偶者帯同の駐在外国人は、配偶者のメンタルケアに苦心することが少なくない。お茶やランチの場に限られる上、おけいこの種類も少なく、かなりの閉塞感を味わう。配偶者帯同で赴任したものの、数ヶ月後には単身赴任者となるケースは決して少なくない。

ガイアナの若い世代では異人種間結婚も珍しいことではなく、様々な混血のガイアナ人は普通に存在する。そのため特定の人種に対しての肩入れや差別的発言は厳禁である。総選挙前こそ、政党と人種の距離が近い。そのため、人種区別を煽るメディアが社会をインド系とアフリカ系に分断するが、通常のガイアナではインド系もアフリカ系も区別なく生活している。だからこそ、外国人の人種に関する発言が常に注目され過敏に反応されるのが実情である。

戒律に厳格なヒンドゥー教徒やイスラム教徒は少なからず存在する⁵。またヒンドゥー教やイスラム教の祝祭、先住民の祝祭、奴隷解放記念日やインド人上陸記念日などは、人種の区別なく、西アフリカやインドの民族衣装を着て、国を挙げ祝う。これが多民族国家で多文化共生を成功させているガイアナの懐の大きさであり楽しさである。

(いとう みちる 大妻女子大学専任講師)

- 1 松本八重子「ガイアナの二大政党制の変化と2015年総選挙」『ラテンアメリカ・レポート』32巻2号、2015年。
- 2 Ito, Michiru. "The Caribbean Community Single Market and Economy: The rationale behind the obstacles and prospects for the integration of the Commonwealth Caribbean". International Journal of Human Culture Studies, no.26, 2016. https://www.jstage.jst.go.jp/article/hcs/2016/26/2016_63/_article
- 3 IADB-GWI. "Master Plan Georgetown Sewerage System Preliminary Design Report. Vol.2: Environmental and Social Assessment. Rev 2". June 2010.
- 4 Guyana Times "Population change and migration". 2016年7月22日。さらなる詳細は国際移住機関によるガイアナ情報を参照。
<https://www.iom.int/countries/guyana>
- 5 伊藤みちる「第21章 環カリブ海地域のアジア系社会—インド人・ジャワ人・ベトナム人など」 「第23章 環カリブ海地域のイスラム系社会—その起源と現在に至る社会の形成」 国本伊代編『カリブ海世界を知るための70章』明石書店2016年